

〔萩藩閔録 十五ノ一〕

一永祿三年、正親町院御即位之料、從元就公被成御調進候、二月十五日、御即位相調、同二月廿一日、元就公被任陸奥守、隆元公被任大膳大夫、此時禁裏江從隆元公之御使者として、右馬亮元相上洛被仰付候、於京都義輝公之御前江元相被召出、鎗之鈴御免許候、依之從義輝公隆元公江御下文有之候、被對元相御免許之御下文故歟、從隆元公、元相江賜候事、御文章左ニ記之、

義輝公

御判

鎗鈴之事、御方重代之家人討○討字恐有誤國司左京亮元相令免許事、於鎗鈴者依有其廉法住院殿以來雖被重事、元相公家使勞、武名積功、彼謂是謂全可令用事也、因狀如件、

永祿三年二月廿一日

毛利大膳大夫殿

〔御湯殿の上の日記〕永祿二年五月三日、御そくゐのふれまよしにさせらる、十二月廿七日、ほんぐわん寺より門跡成の御れいに、御たち二萬疋参りて、御くはりにゐる御かたへも御たち萬疋御れい申、

〔門跡傳坤〕本願寺御門跡

光佐大僧正顯如

天文廿三年八月十二日得度、弘治元年四月十二日任大僧都嗣宗務、永祿二年十二月十五日、勅世補于門跡、勅使萬里小路大納言秀房卿、三年十月補任院家、

〔今古獨語〕抑開山聖人三百年忌、永祿四辛酉年ニアタリ給フ、コレニヨリテ諸國御門弟御一門一家、ソノ外坊主衆参向、タッシ三月ノ比ヒキアゲラレ、勤修アルベキヨシ年内ヨリソノ沙汰